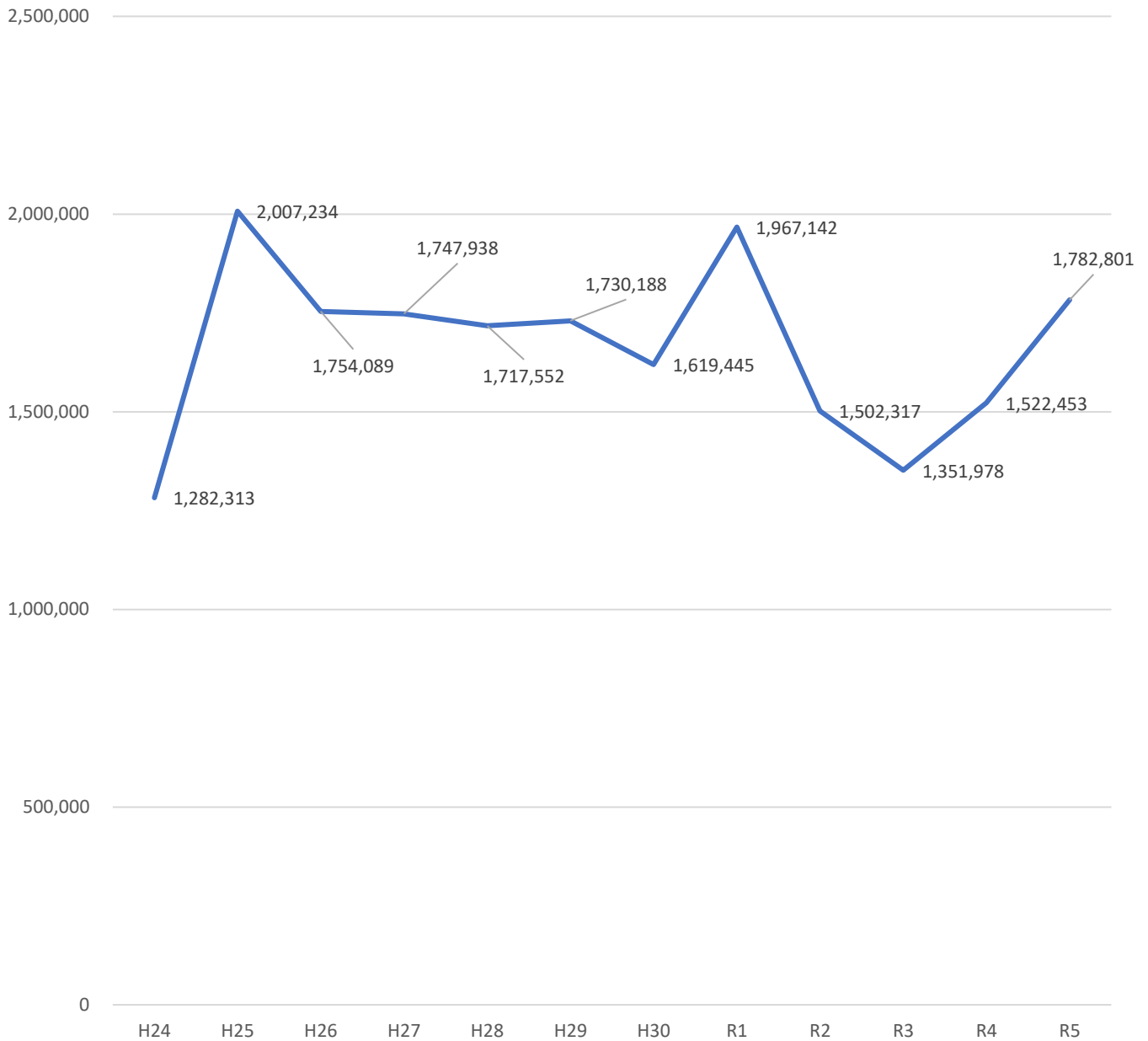
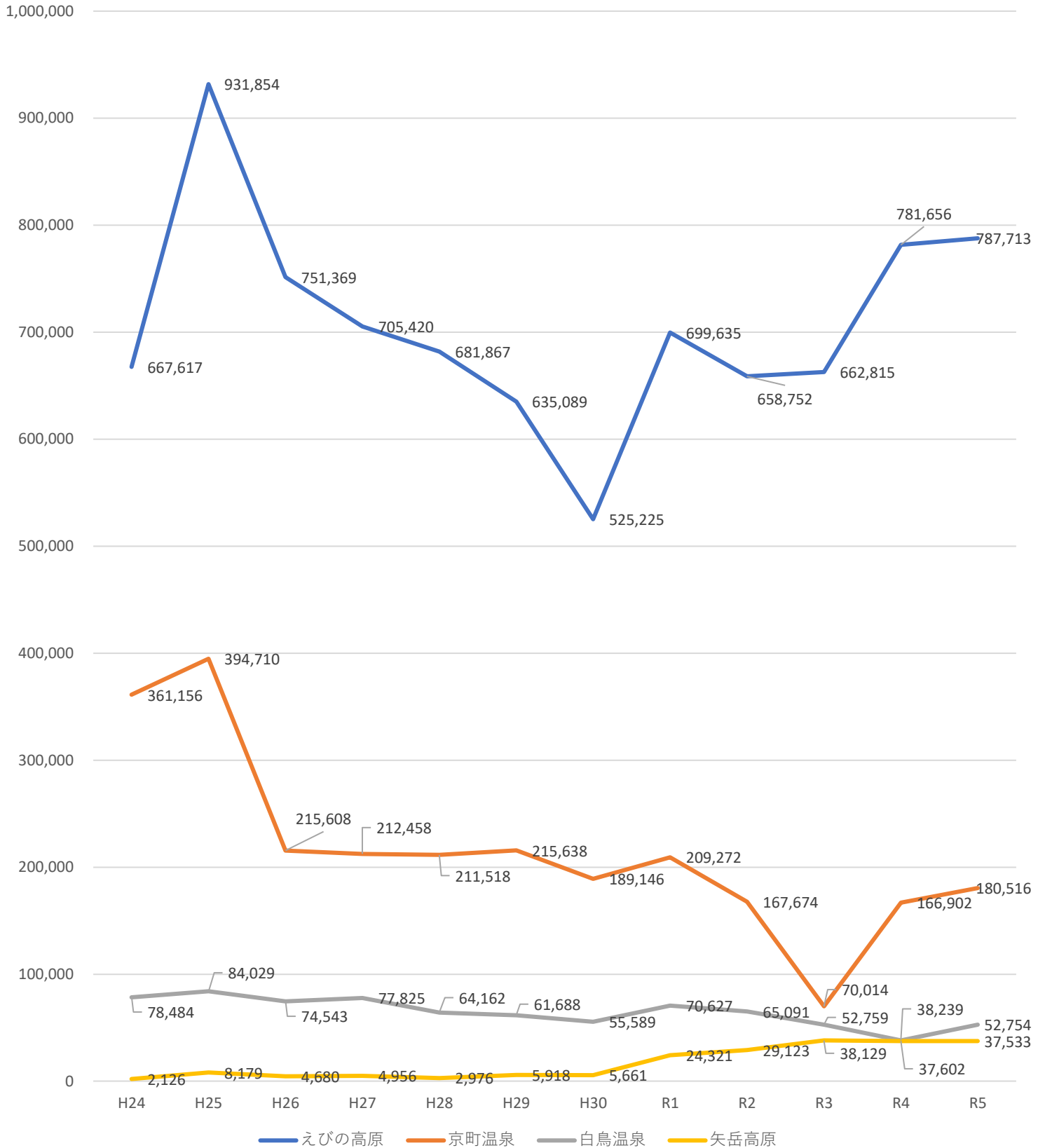


えびの市観光入込客数



2010年口蹄疫、2011年の東日本震災や新燃岳噴火による影響を受けて低調であった観光入込客数は、2012年にあたる平成24年も引き続き低調であったが、平成25年4月に開業した「道の駅えびの」のオープン効果により、えびの市の観光入込客数は飛躍的に数字を伸ばした。しかし翌年度以降、その水準を維持できずに推移し、平成28年熊本震災、平成30年硫黄山噴火による交通規制、登山規制を受けるものの、令和元年には平成25年の水準に回復した。コロナ禍により一旦は大きく減少するものの、ステイホーム、アウトドアブーム、マイクロツーリズムにより再度、回復基調に転じた。

市内観光地の推移



えびの高原の観光入込客数は、社会情勢や噴火などの自然現象に左右されている。コロナ禍にあっても、堅調な回復をみせている。京町温泉の平成26年の落ち込みは、京町二日市について正確な手法による統計調査が行われたため、より実数に近い数値が加味されたことと推定される。国や県の宿泊推進キャンペーンによる下支えてでコロナ禍の落ち込みは回復できているものの、宿泊施設が減少しているなどのことから、スポーツ合宿の受け入れが減少しており、コロナ禍前の水準に戻るのかが危惧される。

白鳥温泉は、えびの高原の状況に大きく左右されないことから、県内外の根強い顧客の存在が想定される。令和4年度の落ち込みは、白鳥温泉上湯のリニューアル工事のために1年間閉館したことが原因。

矢岳高原は以前から集客に苦慮していたが、アウトドアブームの高まりで、大きく数字を伸ばしている。大手飲料メーカーの商業撮影地にもなり、近年、その価値が見直されている。